

伊丹市総合交通計画(中間改訂版)

- ・伊丹市自転車活用推進計画

令和5年度進捗状況報告書

【評価指標編】

令和6年度第2回伊丹市総合交通会議(全体会)
令和6年8月7日(水)

都市交通部交通政策室交通政策課

報告書の見方

本報告書は、伊丹市総合交通計画(中間改訂版)の『第2章 実施計画(後期4カ年)』及び伊丹市自転車活用計画の『第2部 実施計画』に記載されている【評価指標】について、計画期間(R3～R6)の目標値と実績値を記載しています。

事業を実施した結果、もたらされる成果を測る指標について、各年度ごとに目標値を設定しています。

中間改定時の現状値(平成31/令和元年度)から各年度ごとの実績値を記入しています。

整理番号	総合交通計画 No.	自転車活用推進計画 No.	評価指標	性質	H31/R1 (現状)	R3	R4	R5	計画目標 (令和6年度)	令和5年度 評価状況	指標について ①評価指標の説明 ②評価指標の目指す姿 ③目標値の根拠
1	1-A	Ⅱ	自転車レーン等整備区間延長 (km) ※普通自転車通行指定部分有りを除く	↑	目標 実績	9.0 7.8	9.4 9.2	10.5 9.5	12.2	△	①自転車レーン等の整備済区間キロ数 ②整備することにより自転車が安全で快適に通行できるようにする ③整備済区間延長と整備予定区間延長の合計 指標内訳： 現状(平成31年度)：市道4.4、県道3.4 目標値(令和6年度)：市道6.6、県道5.6
2	1-B	Ⅲ	市営自転車駐車場利用台数(台/日) ※1日当たりの平均台数	↑	目標 実績	6,064 6,865	6,331 6,370	6,598 6,680	6,865	○	①1日当たりの市営自転車駐車場の平均利用台数 ②市営自転車駐車場の利用環境を確保する ③新型コロナウイルス感染症の影響により減少した値を年間267台ずつ回復させて、令和6年度に元の水準まで戻す

評価指標の性質について記載しています。
それぞれの表記の意味は、下記のとおりです。
↑ 実績値が目標値を上回る方が良い指標
= 実績値＝目標値となるのが良い指標
↓ 実績値が目標値を下回る方が良い指標

令和5年度の評価状況について記載しています。
それぞれの表記の意味は、下記のとおりです。
◎ 予定を上回る
○ 予定通り
△ 予定を下回る

①評価指標の説明 ②目指す姿 ③目標値の算出根拠
について記入しています。

整理番号	総合交通計画 No.	自転車活用推進計画 No.	評価指標	性質	H31/R1 (現状)		R3	R4	R5	計画目標 (令和6年度)	令和5年度 評価状況	指標について ①評価指標の説明 ②評価指標の目指す姿 ③目標値の根拠
1	1-A	Ⅱ	自転車レーン等整備区間延長（k m） ※普通自転車通行指定部分有りを除く	↑	目標		9.0	9.4	10.5	12.2	△	①自転車レーン等の整備済区間キロ数 ②整備することにより自転車が安全で快適に通行できるようにする ③整備済区間延長と整備予定区間延長の合計 指標内訳： 現状（平成31年度）：市道4.4、県道3.4 目標値（令和6年度）：市道6.6、県道5.6
					実績	7.8	9.0	9.2	9.5			
2	1-B	Ⅲ	市営自転車駐車場利用台数（台/日） ※1日当たりの平均台数	↑	目標		6,064	6,331	6,598	6,865	○	①1日当たりの市営自転車駐車場の平均利用台数 ②市営自転車駐車場の利用環境を確保する ③新型コロナウイルス感染症の影響により減少した値を年間267台ずつ回復させて、令和6年度に元の水準まで戻す
					実績	6,865	5,999	6,370	6,680			
3	1-C	I	交通安全教室の参加者数（人/年）	↑	目標		6,300	6,350	6,400	6,450	△	①地域・学校・事業所などを対象に行う交通安全教室の年間参加者数 ②自転車の安全走行に対する意識を高めることで、自転車事故の発生を抑制する ③映像教材などの新しい啓発手法も導入しているが、引き続き実施する交通安全教室についても、年間50人ずつの参加者を増やす
					実績	6,258	4,322	4,716	4,779			
4	1-D	I	自転車関連事故件数（件/年）	↓	目標		396	377	357	337	◎	①自転車利用者が第1または第2当事者となった交通事故の年間件数 ②自転車の安全利用を促進することで、自転車事故を減らす ③「人口1万人当たりの自転車関連事故件数」の目標値から算出した数値
					実績	420	238	184	160			

整理番号	総合交通計画No.	自転車活用推進計画No.	評価指標	性質	H31/R1 (現状)	R3	R4	R5	計画目標 (令和6年度)	令和5年度 評価状況	指標について ①評価指標の説明 ②評価指標の目指す姿 ③目標値の根拠
5	1-E	I	人口1万人当たりの自転車関連事故件数 (件/年)	↓	目標	20	19	18	17	◎	①自転車利用者が第1または第2当事者となった交通事故、人口1万人あたりの年間件数 ②自転車の安全利用を促進することで、自転車事故を減らす ③年間1人ずつ減少させる
					実績	21	12	9	8		
6	1-F		歩道（街路樹）再整備延長（km）	↑	目標	0.6	1.5	2.2	2.4	△	①街路樹の更新・再整備等を実施した道路キロ数 ②安全・安心な通行空間の確保と良好な都市景観を創出する ③「伊丹市街路樹管理計画」に基づく事業予定を踏まえ、目標値を設定
					実績	0	0.4	0.4	1.5		
7	1-G		都市計画道路整備率（％）	↑	目標	88.7	88.9	89.0	89.1	○	①「都市計画道路整備プログラム」（伊丹市）の計画値に対する道路整備率 ②計画的・効率的に道路を整備する ③都市計画道路の事業予定を踏まえ、目標値を設定
					実績	88.1	88.6	88.8	89.0		
8	1-H		大気汚染に関する環境基準達成率 (二酸化窒素NO2)（％）	=	目標	100	100	100	100	○	①大気汚染の主な要因である二酸化窒素に係る環境基準に対する達成率 ②環境負担の少ない移動手段等を推進する ③車の排気ガスの測定値（測定地：伊丹市役所）を国の環境基準（1日平均値0.04-0.06ppm）以下で維持する
					実績	100	100	100	100		

整理番号	総合交通計画No.	自転車活用推進計画No.	評価指標	性質	H31/R1 (現状)	R3	R4	R5	計画目標 (令和6年度)	令和5年度 評価状況	指標について ①評価指標の説明 ②評価指標の目指す姿 ③目標値の根拠
9	2-A		市営バス利用者数（万人/年）	↑	目標	1,527	1,527	1,527	1,527	△	①市営バスの年間利用者数 ②公共交通の利用を促進し、市民の交通手段を確保する ③本計画策定時に「伊丹市交通事業第4次アクションプラン」の策定中だったため、現状の数値で目標値を設定
					実績	1,527	1,191	1,263	1,321		
10	2-B		鉄道乗降客数（人/日）	↑	目標	72,240	82,560	92,880	103,200	◎	①市内鉄道駅（JR及び阪急）の1日あたりの乗降客数（JRは1日平均、阪急は調査日における数） ②公共交通の利用を促進し、市民の交通手段を確保する ③新型コロナウイルス感染症の影響により平成31年度の値から約30%減少した令和3年度の値を年10%ずつ回復させて元の水準まで戻す
					実績	103,200	87,087	91,497	95,225		
11	2-C		交通局営業収支率（%）	↑	目標	90	90	90	90	△	①交通局が、料金収入等の営業活動による収益で、人件費や燃料費等の営業費用をどの程度賄えているかを表す指標 ②交通局の安定的な経営により、市営バスの路線を維持し、市民の移動手段を確保する ③利用者の高齢化や人口減少を踏まえ、現状の数値を下回らないようにする
					実績	90	76	80	81		
12	3-A		空港線バス乗降客数（千人/年）	↑	目標	226	283	340	396	◎	①JR・阪急伊丹駅と伊丹空港を結ぶ市営バス路線における伊丹空港での年間乗降客数 ②当該バスの利用を促進し、空港へのアクセスを確保する ③新型コロナウイルス感染症の影響により平成31年度の値から約60%減少した令和3年度の値を年10%ずつ回復させて7割の水準まで戻す
					実績	566	278	352	416		

整理番号	総合交通計画 No.	自転車活用推進計画 No.	評価指標	性質	H31/R1 (現状)		R3	R4	R5	計画目標 (令和6年度)	令和5年度 評価状況	指標について ①評価指標の説明 ②評価指標の目指す姿 ③目標値の根拠
13	3-B		中心市街地4エリアにおける 1日あたりの流動人口（4エリア合計）	↑	目標		102,000	112,200	123,420	135,760	△	①中心市街地の4エリアにおいて一定時間滞在する住民と来訪者の延べ人数（流動人口） ②回遊性向上により中心市街地の活性化を推進する ③新型コロナウイルス感染症の影響により平成31年度の値から約30%減少した令和2年度の値を参考に設定し、令和3年度以降は10%ずつ増やす
					実績	168,064	99,190	96,918	104,460			
			中心市街地平均来街者数 （休日通行量）（人）	↑	目標		6,590	—	—	8,330	○	①中心市街地の休日における自転車及び歩行者の10時間の通行量 ②回遊性向上により中心市街地の活性化を推進する ③新型コロナウイルス感染症の影響により平成31年度の値から約20%減少した令和3年度の値を令和4年度に元の水準まで戻し、令和5年度以降は年50人ずつ増やす
					実績	8,238	7,050	—	—	—		
14	3-C		観光入込客数（千人/年）	↑	目標		3,100	3,100	3,100	3,100	△	①伊丹市の年間観光入込客数 ②中心市街地をはじめとする、まちのにぎわいや交流の創出を推進する ③令和3年度に、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の目標値である3,100千人まで回復させて、以降はその水準を維持する
					実績	2,738	1,931	2,498	2,365			
15	3-D	Ⅲ	放置自転車等台数（台/日） ※特定日における台数	↓	目標		120	119	118	117	◎	①調査日における放置禁止区域内の放置自転車・原付の台数 ②安全・安心な通行空間を確保するとともに、良好な都市景観を維持する ③過去に比べて放置自転車等台数は大きく改善されているが、引き続き啓発・撤去などの取り組みを行うことにより、年間1台ずつ減少させる
					実績	120	58	38	56			

整理番号	総合交通計画No.	自転車活用推進計画No.	評価指標	性質	H31/R1 (現状)	R3	R4	R5	計画目標 (令和6年度)	令和5年度 評価状況	指標について ①評価指標の説明 ②評価指標の目指す姿 ③目標値の根拠
16	3-E	I	人口1万人当たりの交通事故発生件数（件/年）	↓	目標	49	48	47	46	◎	①人口1万人当たりの年間の交通事故発生件数 ②安全・安心なまちづくりによって、交通事故発生件数の減少を目指す ③年間1人ずつ減少させる
					実績	50	34	25	22		
17	3-F		高齢者交通事故発生件数（件/年）	↓	目標	310	300	290	280	◎	①高齢者（65歳以上）の年間の交通事故発生件数 ②安全・安心なまちづくりによって、交通事故発生件数の減少を目指す ③年間10人ずつ減少させる
					実績	328	209	153	140		
18		IV	貸自転車台数（台）	↑	目標	174	181	187	194	△	①市内におけるレンタサイクルやシェアサイクルの自転車台数 ②多様な移動手段を確保する ③4年間ごとに約25台ずつ増加させることを目標に設定する
					実績	174	164	173	162		